

1998年の春に家族とともに鈴鹿にやってきて瞬く間に18年が過ぎました。何はともあれ無事に職務を全うできて本当によかったと思っています。その間、鈴鹿高専では高専教育の大きな改革が始まり、独法化とJABEE審査が実施さ

れました。また所属する工業化学科は生物応用化学科へ名称が変更され、コース制が導入されました。さらに学科の研究室がある2号館の改修工事も行われました。

鈴鹿高専にいた18年の間に20世紀から21世紀に変わりました。20代ぐらいまで、西暦2000年は遠い未来のように感



教養教育科(国語)
西岡 将美

おかげさまで

—「その場その時 自己完結」—
卒業生の皆さん、お健やかに過ごしてですか。在校生の皆さん、お爺さん先生の授業に最後までおつきあいをいただき、ありがとうございました。教職員の皆様、長きにわたりご指導ご鞭撻をいただき

感謝のこともございません。いよいよ、本校での教員生活もあとわずかという年の瀬に、本原稿を纏めています。表題通り、まずは「おかげさま」の気持ちで、恙無く3月を迎えることができるように、後一頑張りです。

振り返れば、昭和の終焉、63年度に当時の近畿大学熊野高専から本校に横滑りの形で採用されました。しかし、当時としてはかなり稀なケースで、双方の事務担当の方が「珍しいですね」とおっしゃったことを覚えています。私の採用時の校長先生は故久保田郁夫先生で、実にフランクに「採用試験」を実施していただきました。ありがとうございました。

さて、小生の略歴の中にこの数字とご縁があるのか思うくらいの2つの数字、それは「37」「28」です。「37」は出身大学の皇學館大學、初任地の大阪の啓光学園中学高等学校、続いて近大熊野高専、そして、本校がすべて昭和37年度創立の学校です。次の「28」は、小生、昭和28年生まれで、本校の勤続年数が28年間、そして、平成28年3月に退職という、まあ、記憶力が乏しくなっていくこれからの思うと、語呂合わせて的には「覚えやすい」ということで気に入っています。

ところで、本より浅学非才の小生が、なぜ、教員になろうと思ったそもそものきっかけが、出身地の尾鷲市三木小学校3年生から5年生までの3年間、当市江島町出身、女の担任の先生に起因します。その

先生の魅力に取りつかれて以来、上級学校に進学するたびに、「あこがれ」の先生を見つけては、その時々にご指導を仰ぎ、僕もあの先生のような教師になろうと、いうなれば、井上靖の「あすなろ物語」のように、「あすは教師になろう」と夢を追いかけてきました。さらに、大学時代の「弓道部」では、先輩のことがたさ“、それに、同輩との切磋琢磨することの”たいせつさ“を学ばせてもらいました。そのときに鍛えられたものが、教員になってからも礎となり、豊かなころを持った学生を育てる指導の基本となっているのだと感じています。

小生の「その場その時、自己完結」の合言葉は、今できることを精一杯努力すること、結果だけのためではなく、努力する過程から得られるものを、教師としてのやりがい、生きがいにしようと考えました。3年前まで担当した弓道部では、その指針として「学校生活を充実させるためのもの」、「結果」のみに終始せず、部員としての「自覚(ク)・誇り(リ)・責任(ン)」を持たせる「クリン作戦」を実践した25年間でした。本校奉職前の2校に11年計39年間でした。

最後に、私事で恐縮ですが、本校28年の在職中に、小生にとってかけがえのない二人を失いました。一人は20年前に母(64歳)を病気で、そして、3年前、小生が校長補佐(学生主事)を退いたその年の9月に、国内航路で機関士をしていた実弟(57歳)を、あり得ない理不尽な中国船の航路妨害の海難事故で一瞬のうちに失いました。恐れながら、この二人は、小生の天職、「教師業」の一番の応援者であり、一番の理解者でありました。生きておれば、「無事に終わったよ」のことも「生きたことば」になる筈でした。年度末、尾鷲片田舎の「墓前」に赴き、「合掌」してこうと考えています。拝



総務課長
藤田 時子

安心安全への願い

昭和63年に三重大学から鈴鹿高専へ赴任して28年間、楽しかったことや辛かったこといろいろありましたが、あっという間に時間が経ち、本年3月をもって定年退職を迎えることになりました。たいへんお世話になりました。

ありがとうございました。

高専祭、体育大会及びロボコン大会など、様々な行事でたくさんの学生さんたちと接することができたこと、また学生会の役員たちと交流をもてたことは思い出に残っています。少しやんちゃな学生もいましたが、学生の若さと元気さに、いつも私はパワーをもらっていました。

30周年から50周年記念行事を経て、平成16年には独法化となり事務も目まぐるしく変わっていきました。校舎はすべて耐震改修も終わり、クリエーションセンターやイノベーション交流プラザも完成して校内は見違えるほど綺麗になりました。

2015年の漢字は、「安」でした。快筆された清水寺の森清範貫主は「今年の不安を払拭して、来年は安心安全な社会をつくっていかうという総意ではないか」と語られたそうです。

今年は社会的にも不安のない、自然災害も起こらない、外国へも安心して行ける安心安全の年になってほしいと思います。鈴鹿高専は“ロボット”“水素”などで特色ある高専を目指しています。

ものづくりの目覚ましい発展に伴い、ロボットを使ってより安心安全な社会が来ることを願っています。

この28年間で、教職員・学生のみならず、教育後援会役員・保護者のみならず、企業や他大学のみならずに出会えましたことは私の宝です。

鈴鹿高専で無事に大過なく勤め上げることができましたのも、みなさまに支えていただいたおかげだと深く感謝しております。

みなさまのご健勝と鈴鹿高専のますますのご発展を祈念いたしまして、最後のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

新任教員挨拶

「鈴風」138号より転載



教養教育科
長井みゆき

着任のご挨拶

本年度から教養教育科に着任しました、長井みゆきと申します。英語IAと英語VCを担当しております。右も左も分からないままのスタートでしたが、先生方や職員の方たちからの丁寧なご指導のもと、前期を無事に終えることができました。

私は、学校での英語の成績は決して良くはありませんでした。中学生の頃から洋画を好んで見ていた私は、俳優のセリフやジョークに織り込まれた日本と異なる歴史や文化、その時代背景などに触れることを楽しんでいました。そして映画館以外にも、深夜のテレビ放送を見たり、VHSテープをレンタルしては、日本語字幕と比べながら、断片的に聞き取れるセリフの量が次第に増えてゆくことは、自分の励みにもなりました。しかし当時の高校ではリスニングは皆無、大学入試にも出ません。その上、私が聞き取れたセリフは単純な構造のみ、構文の定着にも役立つことはありませんでした。「そばかす」や「地方検事」なんて単語は高校の試験には出ず、このような「予習」は、学校での英語の成績には全く反映されませんでした。そして、英語は好きだけど苦手、という意識は持ちながら、英語教師になりたいという目標は持ち続けておりました。

その後、実際に英語を使用する機会が訪れました。留学したアメリカの大学院では、読み書き中心だった

日本とは違い、とにかく話し、自己主張しないと評価を得られない世界でした。TAとして学生のライティング課題を校正している私よりも、その課題を出されているESL科の留学生や移民の学生たちの方が弁が立ち、担当教員との交渉も巧妙でした。消極的だった私には、かなり苦勞した毎日でしたが、背に腹は代えられません。とにかく当たって砕けるの精神で、ゼミ仲間や教員と積極的に交流し、アメリカの流儀を学ぶことができました。意見が異なるたびに自分の考えを主張し、根気よく相手を説得しなければなりません。相手は多種多様な人種や宗教、文化や職業をもつ人々です。日本人のように、察してうまく事を運んでくれることもありません。英語もちろん大事ですが、それを使つての伝え方が、とても重要だとその時気づかれました。

大きな抱負を持って、帰国後教鞭をとりましたが、年々学生気質も変わり、まだ道半ばで自分自身の理想にはほど遠いのが現状です。鈴鹿高専の皆さんが、英語をコミュニケーションの道具としてより自由に扱えるようになるまで、志を目標に手探りしながら共に歩もうと思います。皆さんが社会人になれば、海外との折衝や海外進出の機会に出会うこともあり、在学中に積極的に英語を学ぶことは将来への投資となります。未来への期待を膨らませ、一緒に前へ進んでいきましょう。将来への投資の為に。そして英語と同時に、より多くの人々とたくさん触れて、コミュニケーションの技を習得していきましょう。

着任のご挨拶



電気電子工学科
橋本 良介

鈴鹿高専の皆様、本年度から電気電子工学科の助教として着任しました橋本良介です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私の出身は三重県度会郡度会町で、本校の卒業生および専攻科修了生です。改めてご挨拶を申し上げます。

着任してから数か月が経過しておりますが、懐かしさを感じることも多く、特に寮直関係の仕事では感慨深いものがありました。私は、中学校を卒業してから、多くの高専生と同じく15歳で親元を離れて寮生活を始めました。長年生活してきた実家を離れるのは少し寂

しく、また慣れないことも多々あったことを記憶しております。しかし、今となっては良い思い出で、自分を成長させてくれた場所だと感じました。

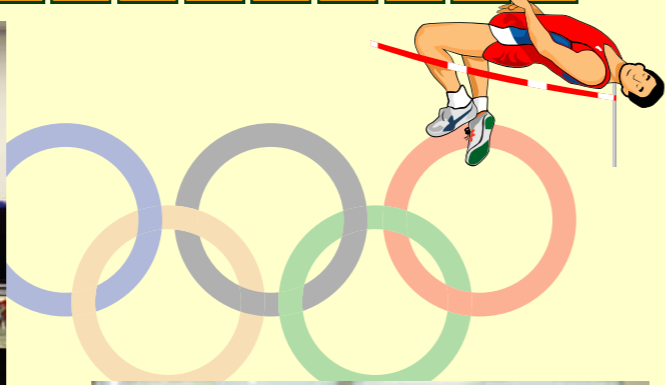
さて研究のことについても少しご紹介させていただきます。私は、専攻科でネオジム磁石を利用した携帯型発電機開発の研究に携わりました。以降、現在に至るまで磁性材料の研究に従事しております。専攻科修了後は、豊橋技術科学大学に進学し、磁気光学薄膜の研究を行いました。薄膜磁界センサを利用して、亀裂のような欠陥から漏れ出る磁界の検出を行う非破壊検査に関する研究です。薄膜といっても定義は曖昧で馴染みのない方もいらっしゃるかと思います。私が扱っていたのは、厚さ0.5マイクロメートル程度の磁

リオ五輪出場の衛藤選手へ激励金贈呈



リオ・オリンピックの陸上男子走り高跳びに出場した衛藤昂選手（平成23年3月材料工学科卒業、平成25年専攻科修了）が、9月14日に帰国報告のため本校を訪問されました。その折、小手川会長より青峰同窓会からの激励金を手渡し、リオ・オリンピックでの健闘を労いました。

衛藤選手は初出場した今回のオリンピックでの体験をお話になり、4年後の東京オリンピックに向けての抱負を語られました。



性薄膜です。どうして薄膜なのかと一言で申し上げますと、光を制御するためです。光は、波長が0.5マイクロメートル前後の電磁波であり、電気と磁気の影響を受けます。従って、磁気を利用して光が制御できます。しかし、光を制御するためには、同じスケールの磁性体を利用する必要があります。例えば、豆を掴もうと思ったら、その豆と同じスケールのピンセットが必要です。誰もクレーン車を利用して豆を掴もうと思わないはず。従って、光を掴むためには、同じスケールの0.5マイクロメートル前後の磁性体が必要になります。だから薄膜なのです。磁性体は、ナノメートルオーダーの微細な磁区の集合体であり、それぞれの

磁区が独立して磁界を検出することができるため、センサ自体の物理的な大きさに影響されずに、高空間分解能な非破壊検査が可能である点が最大の特徴です。このような非破壊検査応用に適した薄膜センサの構造を設計し、非破壊検査に応用した際の特性をまとめて、博士号を取得しました。今後、高専では自在に曲がり光が通る磁界センサを、学生さん達と開発したいと考えております。

まだまだ経験不足の若輩者ではありますが、責任と熱意を持って教育・研究活動に従事していきたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

「鈴風」138号より転載

鈴鹿高専に赴任して



教養教育科
澤田 圭樹

みなさんこんにちは、平成28年4月より教養教育科(理科)に着任しました澤田圭樹と申します。このたび人事交流制度で鳥羽商船高等専門学校から鈴鹿工業高等専門学校にお世話になることとなりました。担当科目は1年・2年生の教養教育化学と

なります。学位は理学の物理化学で取得しており、専門は結晶構造解析を応用した固体反応化学です。たった2年間ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。

昨年度までは、三重県内の鳥羽市にある鳥羽商船高等専門学校で12年間一般教育の化学を教えていました。ちなみに、「鳥羽商船」ときいてどんなイメージがありますか？歴史的には1881年に設立された攻玉社商船製分枝を祖にする商船学校から、いくつかの変更を経て1967年に商船高等専門学校へと衣替えをしている、商船に関する学科を中心とする学校でした。年号が平成に変わるころ工業系学科が創設され、現在の「商船学科」「電気電子工学科」「制御情報工学科」の3学科体制になっています。ほとんどの高専は「鈴鹿高専」のように「〇〇高専」と省略されますが、鳥羽商船高等専門学校は「〇〇商船」と省略することから「高専」であることが忘れられがちですが、実際は「商船と工業の高専」ですので、お見知りおきを願ひします。

人事交流制度での赴任であり、たった2年間であるため、現在は鳥羽市の自宅から都合2時間かけて通勤をしております。原稿を書いているのはちょうど伊勢志摩サミットの時期でもあり、この通勤を知った方々には「長時間の通勤は大変じゃない？」「警護とか混雑とか大丈夫？」と心配されましたが、三重県南部から

の通勤は人も少なく混雑もしていないため朝の電車は確実に座れるし、サミット会場である志摩市からも外れているため運休とも無縁で済んでいます。大学生や教員として東京に住んでいたとき、20kmほどの距離を2時間かけて電車通勤していたこともあります。その時は常に150%超の混雑で休まる時もなく「痛勤」の日々でした。ここ三重県では60km超の距離も快適に通勤させてもらっていて、まさに近鉄様々の気持ちです。

高専勤務歴は13年目になるので「同じ高専なのだから」と思うこともある反面、こちら鈴鹿高専に来て、すばらしいなぁと感じる場面も多々あります。教務的なことや学校組織的なことでもよいと感じるところはたくさんあるのですが、学生に関係ある部分で挙げてみると、例えば担任団の制度です。本校では1年生の担任には5学科5人の担任が配属しており、さらには1年生学年主任・担任補佐など総勢8人の担任団で1年生全体を見守っています。担任それぞれの個性を重視しながら、大きな出来事や難しい出来事が発生した場合には担任団としてサポートできる体制となっています。2年生の担任団も同様で、それぞれ独立なうえに強力なサポート体制が確立されているように感じました。これは鳥羽商船高専では見られない制度であり、戻った際には大いに参考にさせていただきたいと考えています。他にも自転車通学者への指導体制や授業・補習・部活動への取り組みなど、考え方ややり方が異なる面も多くみられ参考にできる部分がたくさんあります。人事交流制度を利用させていただいている以上は、この鈴鹿高専という組織の長所をたくさん発見し、戻った時にその経験を生かせるよういろいろ体験していきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

鈴鹿高専OGの集い

日時：10月16日(日)14時から15時
会場：高専イノベーション交流プラザ(旧3寮)1階会議室
テーマ：同窓会女子の部について
参加者：57C西尾真澄さん、58C古田美子さん、58C慶徳純子さんとお孫さん、h07C本間八重さんと娘さん、42C小手川会長、49M小野さん、52H江崎尚和さん(現教務主事)、<事務局>48E伊藤栄一さん



【会長よりご挨拶】
青峰同窓会の同窓生も5000人を超え、また近年女性も多くなりつつある中、男性は結婚、出産、育児等のイベントに比較的左右されず集まりに参加出来たりする機会が多いが、女性は育児に介護になるとなかなか難しい状況である。同窓生に女性が増えて行く状況の中、縦の繋がりが持てる同窓会「女子の部」について意見を求めたい。

【フリーディスカッション】
高専に入学した理由から、卒業してから現在のライフスタイルなど交えながら、女子の部についての必要性や、もし設立となればどの様に参加者を集い、どういったテーマで実施するのが有意義であるかを話し合う。
・様々な年代で、情報交換出来る場になると良い
・近年、部活動でも「女子部」が出来ている。「女子部」に声を掛けていくのも良いのでは

- ・OB会、OG会とあえて分ける事の必要性はないかもしれない。ただし女性も気楽に出席し、ざっくばらんに話せる場になるのが良いのでは
- ・同窓会の開催を高専祭の中で今回のようにイノベーション交流プラザなどで実施、高専祭のパンフレットに、青峰同窓会より広告として載せたり、放送をかけてもらい気楽な参加を呼びかけるのも良いのでは
- ・始めは小さな集まりでも、これを少しずつ広げて、何か出来ることを考えていければ良いのでは

<筆者&事務局所感>
難しいテーマながら終始和やかな雰囲気であり、1時間のかかり濃いフリーディスカッション、内容についてはこれから検討していくことになるが、縦の繋がりが希薄になりつつある近年、この様な新たな取り組みを設けるのも良いかもしれないと思う。

記事作成 本間八重 (h07C卒)

訃報 出口 芳孝 先生

昭和60年から英語を担当されておりました出口芳孝先生が3月30日にお亡くなりになりました。先生は本校電気工学科を昭和48年3月に卒業され、その後進路を文系へと変わられ英語の教員として本校に赴任されました。テニス部の部長を長年担当され学生に慕われておりましたが、体調を崩されました。一時は回復された様子もみられましたが、残念ながら定年退職の直前にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。この会報では、その年に退職された教職員の方の校内報「鈴風」での記事を転載させて頂いております。今年の春の「鈴風」には出口先生の記事も掲載されておりますが、同窓会報への転載許可の返事は残念ながらいただくこと無く、お亡くなりになりました。それで、今回の会報には出口先生の記事は掲載していませんことをご了承下さい。

平成27年度青峰同窓会会計報告書		
	摘 要	金額(円)
収入の部	平成26年度からの繰越金	28,266,230
	平成27年新入会員の入会金・終身会費	2,145,000
	預金利息	5,822
	合 計	30,417,052
支出の部	会報発行経費	869,927
	SNSサーバー構築費・利用管理費	260,280
	事務費	141,781
	先進的エンジニア育成基金寄付(27年度分)	1,000,000
	平成28年度への繰越金	28,145,064
合 計	30,417,052	